

修 士 課 程

< 商 学 研 究 科 >

ハンス・ルフチ会計理論の研究 — p. 428 —

片野ゼミ 大 藪 俊 哉

第I部 ハンス・ルフチの減価償却論

第1章 問題設定

第2章 支払の流れと支払系列

第3章 減価償却による資金の流動化過程

第4章 減価償却によって流動化した資金の投資過程

第5章 結 び — 金融的効果の限界 —

第II部 ハンス・ルフチの勘定理論

第1章 経営取引過程とその記帳法

第2章 成果決定と在高変動

第3章 損益計算書と運動貸借対照表の関係

第4章 資本取引と債権の処理

第5章 結 び — ルチフ勘定理論と現金収支仕訳法の関係 —

※ ※ ※

ウェルシュの予算統制論研究 — p. 234 —

— 予算統制と利益計画との関係について —

古川ゼミ 太 田 謙

第1章 総括予算統制の本質

第2章 予算統制と利益計画との関係

※ ※ ※

原価管理に関する会計学的考察 — p. 781 —

番場ゼミ 高 田 清 朗

第1章 序に代えて

- 第2章 原価管理と原価計算
- 第3章 部門の管理と会計の関係
- 第4章 ケーファー標準原価計算論の問題点
- 補章 第1節 部門管理と直接原価計算
- 第2節 内部損益計算覚書

＜ 経 済 学 研 究 科 ＞

第三次産業と産業構造 — p. 803 —

大川ゼミ 伊 東 壮

- 第1章 産業概念の意義と内容
- 第2章 第三次産業の構造と特質
- 第3章 第三次産業の部門別構造
- ※ ※ ※

中東の民族主義と共産主義 — p. 182 —

板垣ゼミ 田 口 裕 郎

- 第1章 エジプト
- 第2章 イスラエル
- 第3章 シリヤ及びレバノン
- 第4章 ヨルダン
- 第5章 イラク
- ※ ※ ※

米国巨大企業 — p. 320 —

— その性格と行動 —

中山ゼミ 鈴 木 純 一 郎

- 第1章 米国経済における巨大企業体の成立と反独占政策の展開
- 第2章 集中の基本的動因
- 第3章 寡占市場における価格形成

第4章 経済進歩と巨大企業

※ ※ ※

斗争による賃銀の決定 — p. 294 —

山田(雄)ゼミ 小野 旭

第1章 序論

第2章 学説史的考察

第3章 斗争による賃銀の決定

第4章 結論

※ ※ ※

経済成長の一模型 — p. 247 —

— 資本係数と所得分配率の安定性について —

中山ゼミ 田村 貞雄

第1章 問題提起

第2章 先駆的理論の検討

第3章 問題解明の一試論

※ ※ ※

レオンチェフ体系における誤差の取扱いについて — p. 85 —

山田(勇)ゼミ 松尾 博

第1章 一般的考察

第2章 標本理論に基づくレオンチェフ体系の運用

※ ※ ※

「報徳思想」について — p. 245 —

— 日本農業主義思想の一類型 —

永原ゼミ 漆原 綏

※ ※ ※

— 適度人口と人口の適正成長率に関する研究 —

中山ゼミ 南 亮 進

第I編 適度人口理論

第1章 適度人口理論の生誕 — キャンンの適度人口理論 —

第2章 適度人口理論の発展 — ミードの適度人口理論 —

第II編 ケインズ派経済学における人口理論

— 人口の適正成長率概念とその理論的表現 —

第3章 新しい人口理論の生誕 — ケインズの人口理論 —

第4章 ハンセンを中心とした長期停滞論者の人口理論

第5章 ハロッドの成長理論と人口の適正成長率

第6章 ロビンソンの蓄積論と人口の適正成長率

第III編

第7章 人口適度理論の新たな展開の試み

※ ※ ※

Dynamics of Economic Growth and Structural Change — p. 68 —

— with reference to Investment Policy

in Underdeveloped Countries —

Tsuru semi. Natsuaki Fusano

Part I A preliminary view; Whereabouts of problems

Part II Growth and structural change

Chap. 1 Setting for the part

Chap. 2 Factual co-relation

Chap. 3 Theory — largely with reference to industrially advanced countries —

Chap. 4 Retrospects and prospects

Part III Structural change and investment policy

— largely with reference to
planned underdeveloped economy —

Chap. 5 Aspects of structural change
in planned underdeveloped economy

- Chap. 6 Structural change and investment policy
 Chap. 7 Planning and structural change
 Chap. 8 Rebut the rebuttals; Specialization
 in primary exporting industries

< 法 学 研 究 科 >

繰 延 勘 定 — p. 237 —

田中（誠）ゼミ 倉 島 研 二

- (一) 概 念
 (二) 内 容
 (三) 商法会計体系における繰延勘定
 (四) 各国における繰延勘定項目表

※ ※ ※

株式会社総会決議無効の訴について — p. 229 —

—— 無効事由は如何なる場合に許容されるべきか ——

田中（誠）ゼミ 志 村 和 彦

- 第1章 現行商法の規定に至るまでの決議取消無効の訴の沿革的概観及び
 他の会社法上の訴との関連性
 第2章 現行商法の決議無効確認の訴に関する学説の対立とその根拠並び
 に批判
 第3章 無効取消理論の展開
 第4章 現行商法における無効事由の吟味

※ ※ ※

賃借権に基く妨害排除請求権 — p. 228 —

吾妻ゼミ 早 川 章

- 第1章 序 論
 第2章 フランス

第3章	ドイツ
第4章	我国における学説・判例
第5章	結論

※ ※ ※

政治ストの合法性 — p. 205 —

吾妻ゼミ 国 本 明

第1章	序論
第2章	政治ストの概念
第3章	政治ストの合法性
第4章	結論

※ ※ ※

税務訴訟の立証責任をめぐって — p. 324 —

— 公定力理論の一側面 —

田上ゼミ 真 島 一 男

第1章	立証責任
第2章	行政訴訟における立証責任
第3章	税務訴訟における立証責任

※ ※ ※

被害者の承諾に関する一考察 — p. 299 —

植松ゼミ 長 山 弘

第1章	被害者の承諾が問題となる罪
第2章	被害者の承諾と違法性阻却
第3章	承諾の成立要件
第4章	実在的承諾と推定的承諾
第5章	米国における被害者の承諾

※ ※ ※

吉永ゼミ 中 川 和 彦

第I部 序 説

第II部 本 論

第1章 スペイン株式法

第2章 メキシコ株式法

第3章 チリー株式法

第III部 結 語

<付録資料> スペイン商法典抄試訳

スペイン株式会社法試訳

チリー商法典抄試訳

その他

< 社会学研究科 >

高島ゼミ 畑 孝 一

第1章 人類の聖史

第2章 ヨーロッパ三頭政治

第3章 ライン新聞

第4章 ヘスの社会主義 —— 「二十一ボーゲン」誌の三論文 ——

第5章 ヘスの社会批判 —— 「貨幣体について」を中心にして ——

第6章 ヘス思想の限界 —— 補 論 ——

※

※

※

高島ゼミ 篠 原 三 郎

第I編 利潤率の傾向的低落の法則

第1章 利潤率の傾向的低落の法則の諸問題

第2章 反対に作用する諸原因

- 第3章 反対に作用する諸原因の意味
- 第4章 利潤率の傾向的低下に作用する現実的諸原因
- 第5章 法則そのもの
- 第II編 利潤率の低落の法則と法則の内的諸矛盾の開展
- 第1章 法則と内的諸矛盾の開展

※ ※ ※

初期マルクスにおける疎外の理論 — p. 864 —

高島ゼミ 藤 森 俊 輔

- 第1章 学位論文
- 第2章 ライン新聞時代
- 第3章 国法論批判
- 第4章 独仏年誌
- 第5章 経済学・哲学手稿

※ ※ ※

エピクロスの倫理思想 — p. 326 —

藤井ゼミ 岡 野 哲 士

- 第I部 エピクロスの伝記
 - エピクロスの思想把握に対する伝記の意義
 - エピクロスの生涯
- 第II部 エピクロスの倫理説
 - エピクロスにおける倫理説の位置
 - 倫理説の根底にある幸福主義
 - 快楽論について
 - 友情論について

※ ※ ※

再生産表式から再生産バランス表式への展開 — p. 745 —

高島ゼミ 中 野 雄 策

- 序章 再生産の社会主義的形態について

第2章	再生産バランス問題の歴史・文献・性格・範囲		
第3章	社会的生産物の生産と利用を示す総合バランス主義		
第4章	社会的生産物（価値）の分配を示す総合バランス表式		
	※	※	※

国際共産党東方策と中国革命の構造的性 — p. 429 —

熊野ゼミ 高橋 義寛

第1部	反帝民族主義
第2部	農民革命

※ ※ ※

マルクスにおける史的唯物論の成立 — p. 261 —

上原ゼミ 薄葉 充衛

第1章	若きマルクスのみた現実
第2章	マルクスの現実接近の方法
第3章	マルクスの歴史意識の展開
第4章	疎外理論から史的唯物論へ

※ ※ ※

マックス・ウェーバーの宗教社会学研究 — p. 1403 —

増田ゼミ 英 明

序論	問題の所在
第I部	方法論的前提——ウェーバーにおける歴史学及び社会学の論理——
第1章	理想型概念の諸相
第2章	因果帰属の方法
第3章	歴史学及び社会学の認識志向
第II部	「歴史的」宗教社会学
	——「近代資本主義」の因果帰属的理解——
(A)	「資本主義の精神」と「禁欲的プロテスタンティズムの倫理」の適 合的連関の証明
第1章	「資本主義の精神」の理想型的構成

第2章 論証の問題

(B) 西洋近代資本主義の成立の比較史的検証

——「世界諸宗教の経済倫理」——

第1章 中国 ——「儒教と道教」

第2章 インド ——「ヒンズー教と仏教」

第3章 古代近東世界(小アジア) ——「古代ユダヤ教」

第Ⅲ部 「社会学的」宗教社会学

—— 宗教及び宗教倫理の社会学的把握 ——

第1章 宗教の成立

第2章 祭司・予言者・平信徒

第3章 身分・階級と宗教

第4章 救済観とその宗教倫理的帰結

第5章 諸文化宗教の対現世的態度

※

※

※

「イーゴリ遠征物語」

—— p. 898 ——

金子ゼミ 中 村 喜 和

第Ⅰ部 「イーゴリ遠征物語」について

序 論 1. キーエフ・ルーシの社会

2. キーエフ・ルーシの文化

本 論 1. 写本の発見と最初の刊行

2. イーゴリ・スヴィャトスラヴィチの遠征に関する史実

3. 「イーゴリ遠征物語」の構成と内容

4. 文体・ジャンルおよび言語

5. 作者について

6. 古代ロシア文学における「イーゴリ遠征物語」

第Ⅱ部 本文および日本語への試訳

第Ⅲ部 「イーゴリ遠征物語」の研究史概観

1. 初版に対する最初の反響

2. 19世紀30~40年代における研究

3. 神話学派

4. 借用理論をめぐる論争

5. 神話学派の復活

6. 20世紀の初めにおける研究

7. ソヴェト初期における研究
8. 750年祭と第二次世界大戦の時期の研究
9. 第二次世界大戦後における研究